

地域おこし協力隊

人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において、地域外の人材を積極的に受け入れ、地域協力活動を行いながら、そこでの定住・定着を図ることを目指します。そのことで、意欲ある都市住民のニーズに応えるとともに、地域力の維持・強化を図っていくことを目的として、2009年度より総務省により制度化された事業です。

都市地域から人口減少地域等の条件不利地域に住民票を移動し、生活の拠点を移した者を、地方公共団体が「地域おこし協力隊員」として委嘱します。隊員は、一定期間、地域に居住して、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域おこしの支援や、農林水産業への従事、住民の生活支援などの「地域協力活動」に従事します。活動期間は概ね1年以上3年以下です。

石岡市地域おこし協力隊文化財利活用担当

2018年度は、6人の地域おこし協力隊が活動していました。隊員は5つの分野（中心市街地活性化・観光交流・農林業・移住定住・文化財利活用）をそれぞれに担当し課題に取り組むと同時に、連携を取って分野を横断した活動を展開していきました。

その中で私たち2人は、教育委員会文化振興課に籍を置き、石岡市の歴史と文化を調査研究し、素人（プラス転入者）の立場から、石岡市の魅力の掘り起こしとPRに取り組みました。

市内の文化財、史跡や寺社などをわかり易く解説したガイドブック「石岡の歴史と文化」を手に、掲載されている場所と活動中に頂いた情報をもとに、百五十か所近くに足を運びました。

延べ1500枚の写真と、自分たちの目と鼻と耳、そして、心で感じたことを研究成果としてまとめることができました。それらは、日々フェースブックで発信するとともに、書籍と映像（DVD）という形にもなり、1か月に及ぶ「ゆりの郷」での発表機会も得ることが出来ました。

調査の概要

- 1 調査を始めるにあたって
まず、石岡を知ることから始まる！！
石岡の道を知る！
石岡の土地を知る！
石岡の人を知る！
石岡の動きを知る！
石岡の歴史を知る！
石岡の歴史遺産を知る！

2 調査の目的

- (1) 石岡を知ること
- (2) 石岡の歴史と文化に触れること
- (3) 地域とのつながりを広げること
- (4) 文化財利活用の糸口を探ること

3 調査方法

- (1) 調査は4つのアクションで！
アクション1 ⇨ 知る
アクション2 ⇨ 行く
アクション3 ⇨ 感じる・思う
アクション4 ⇨ 整理
- (2) 調査の原則は現地に行く！

そして、

見る・聞く・触れる・感じる・思う！

4 調査計画

95のタイトルを28のグループに分け、3ヶ月の時間をかけて、現地に足を運ぶ計画を立てました。

5 調査結果の活用

活用に向けた整理

- ・資料（写真等）の整理
- ・感想の整理
（移住者らしく、素人らしく、自分らしく）
- ・伝え方の整理

- (1) 石岡をアピールする材料とする
- (2) 石岡の学びの資料とする
- (3) 地域おこし活動の検討材料とする

6 調査から見てきたもの

(1) アピールできる魅力

「いいね」がいっぱいの石岡！！

自然が豊かな石岡！

景色がすてきな石岡！

古墳の多い石岡！

野菜が安全・おいしい石岡！

モダンな歴史の石岡！

深い歴史の石岡！

① 豊かな自然

- ・球状花崗岩 ・常陸風土記の丘
- ・加波山神社 ・吉生の砦

② 心に染み入る景観

- ・八木の干拓 ・朝日里山学校
- ・板敷山大覚寺 ・鳴滝

③ 人の生活が見える

- ・旧石岡市内看板建築 ・たばこ神社
- ・足尾神社 ・常陸風土記の丘

④ その時代に生きた人物の思いが伝わる

- ・佐久良東雄旧宅 ・常春寺
- ・泰寧寺 ・高浜神社

⑤ 歴史的価値が高い

- ・常陸国分尼寺跡 ・舟塚山古墳
- ・常陸総社宮 ・常陸国分寺跡

(2) 利活用に向けての課題

① 歴史遺産の維持・管理

- ・地域の人口の減少
- ・地域住民の高齢化
- ・生活スタイルの変化
- ・信仰に対する意識の変化
- ・価値観の多様化

歴史遺産
離れ

② 活用の物足りなさ

アピール不足 ・呼び込む手だての弱さ
情報発信→窓口→案内表示→説明表示
企画不足

- ・ねらいを持つ（しぼる）
- ・規模（大小）
- ・継続⇄単発
- ・横のつながり

工夫が
必要

③ 歴史遺産のニーズとのずれ

現代人が求めているもの

・映像美（インスタグラム）

・話題性

・収集

④ 市民の思い

♡石岡市をもっと知りたい！

・歴史や文化遺産に興味がある

♡石岡市を生き生きとさせたい！

・地域おこしに興味がある

→ 何かをやりたい

何かをやっている

♡今の石岡市が好きだ！

・今の石岡が良い

→ 今のままがいい

・観光客のマナーの悪さが困る

→ 今のままでよい

(3) 課題解決への糸口

期待する活用や活動

- ・花と歴史遺産のマッチング
- ・世間遺産で意識の高揚
- ・歴史の中の物語をつなげる楽しさ

石岡、いいね！！

調査を実施する前は「何かなくては！」と、活動することに意識を置いていました。実施後の今は、「何か」の内容に意識が向くようになりました。実現の可能性、効果の有無、継続性等を考えるようになった今、以前に増して石岡への興味が大きくなってきました。

すべてが新鮮で衝撃的だった石岡市地域おこし協力隊としての1年でした。日々の活動を通して石岡の良さや課題が見えた今では、以前とは違った見方で石岡を考えるようになってきたように思います。それは、他市町村との比較をするようになってきたことです。比較がすべて良いわけではないですが、比較から良さや改善点が浮かび上がることも事実です。

今後はまず、「石岡の歴史と文化」を点で見るのではなく、歴史のステージで理解を深めていきたいと考えています。そして、その後はそのステージを線でつなげるような見方をして、石岡のヒストリーがストーリーとして繋がるようになれば、一段上の「石岡いいね！」が見えてくると考えています。